

# 教材の使い方「川の様子と河原の石」

## 【使い方】

生徒全員に、プリント「川の様子と河原の石」を配ります。

プリントには川の地図が書いてあり、上流から河口まで①～⑪の番号がうってあります。

班に1セットずつ川の様子を撮った写真を配ります。

どの写真がどの場所のものかを考えさせます。

上流から下流に向けて川の様子が変わることや河原の石がだんだん小さくなることを理解することができます。

問題の答えは下のようになります。

地図の番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
写真の記号	エ	サ	キ	ウ	ク	イ	コ	カ	ア	ケ	オ

## 【対象】

小学校での川の様子を学習する単元や中学校での川の侵食作用を学習する単元などで使用できます。

## 【その他】

小田川上流から肱川河口までは、大きなダムもなく、川が連続しています。(ただし、大洲に可動堰があります。)

川の上流や下流の写真を比べることはよくある活動だと思いますが、この資料では、1本の川で上流から下流までの様子を見ることができます。

上の写真に写っている河原に行つて石を撮影しています。例えば「カ」の写真の場合、写真中央右の河原に行つて石を撮影しています。

「イ」と「オ」の写真は川上側から写真を撮っています。その他は、川下側から写真を撮っています。

肱川は河口近くまで急峻な山地が迫っている先行性河川です。そのため河口部に三角州平野が形成されていません。その点が一般的な川と違いますので、授業で使う際には補足を願います。

この資料の写真は、私が自分で撮影したもので、授業等で自由に使つてかまいません。